

農産物、食品の流通問題

画一的サプライチェーンから、多様化するバリューチェーンへ

食農ビジネス学科

講師 **戴容秦思** (食品流通研究室)
 だい ようしんし

E-mail jessy.dai@setsunan.ac.jp

キーワード 小回りの効く生産 流通システム
 製配販をめぐる対立と協調の共存/均衡



リサーチクエスチョン

将来発生する可能性のある様々なショックに対処していけるような
頑健な食料流通システムはどのようなもので、どのようにして構築するか

背景

- COVID-19前から食料流通システムは既に危機に瀕していたが、非常事態の頻発によってその脆弱性が露呈。人間の生存に不可欠な基本的な商品の国内自給や地域内流通の再評価が求められる。
- 国内のすべての消費者に安全な食料・農産物を安定的に供給できるためには、広域化・グローバル化で硬直した寡占的サプライチェーンの強靱性の改善ばかりでは問題解決にならない。
- 頑健な食料流通システムを目指すには、地域の多種多様な農業経営の生産力展開に対応した多元的流通システムの構築、つまり多様な品目・小ロットに対応できる柔軟性と、狭い域でも循環できるような持続性に着目する必要がある。

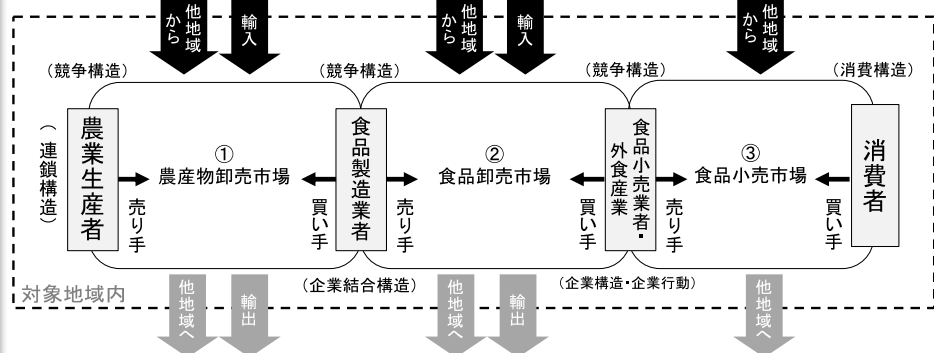
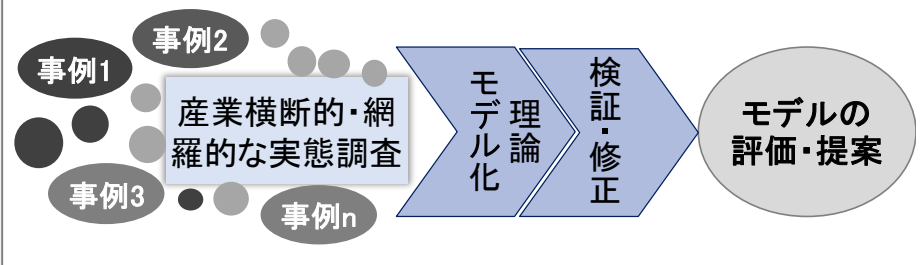
明らかにすべき課題

- 対象地域の食料市場を規定する空間的・時間的・人的要因とは何か、それを取り巻く社会経済的環境にどう影響されるか？
- 取引連鎖構造における地域の農業生産者・加工業者・流通業者のウィン・ウィン関係をどのように作り出し、どのように維持していくか？
- 各主体の社会的責任感ならびに主体間の信頼関係はどのような要素に基づいて形成されるか？
- 以上をふまえてどのような理論モデルを抽出できるか？



網羅的な実態把握を通じて体系的に実証する必要がある

アプローチ (上図: 研究プロセス; 下図: 分析枠組み簡略図)



連携の展望・産業界へのアピールポイント

地域内における農林水産業の生産者、加工業者、流通業者、食品産業、行政機関、消費者の意志疎通と共存共栄的連携をベースとした、新たな価値を見出すアグリ・フードビジネスについて提案します。

戴の研究についてもっと詳しく

